



WEEKLY REPORT

高山中央ロータリークラブ
2020～2021 年度 高山中央 RC 会長テーマ
「集う」



◆会長 村瀬 祐治 ◆幹事 岡崎 壮男 ◆会報委員長 岩本 正樹 ◆会報担当 高木 純

創立 1991 年 5 月 20 日

◇事務局 高山市本町1-2

飛騨信用組合本町サテライト出張所 3階

TEL:0577-36-0730/FAX:0577-36-1488

◇例会場 ひだホテルプラザ 3F/TEL:0577-33-4600

◇例会日 毎週月曜日 PM12:30～

◇ホームページ <http://www.takayamacrc.jp/>

<出席報告>

| | 会員数 | 出席会員 | 出席 | Make-up | 出席率 |
|---------------|------|------|------|---------|--------|
| 本日 1250 回 | 58 名 | 57 名 | 45 名 | — | 78.95% |
| 前々回 1248 回 | 58 名 | 57 名 | 46 名 | 0 名 | 80.70% |

- 点 鐘
- ロータリーソング それでこそロータリー
- 高山中央ロータリークラブ職業倫理基準
- 本日のゲスト
高山市教育委員会 教育長 中野谷康司様
教育研究所 指導主査 大門 佳孝様

●会長の時間



会長 村瀬 祐治

本日 30 周年記念事業として 高山市教育委員会卓話を頂きます。

高山市教育委員会

教育長 中野谷康司様

教育研究所 指導主査 大門佳孝様

卓話 表題は高山市適応指導教室 「であい塾」の現状とタブレット活用の可能性についてです。よろしくお願ひいたします。

○今期、創立 30 周年記念事業として学校へ登校できない児童・生徒が タブレットを使って基礎学を学び将来へ進む道を広げていくためにタブレットを寄贈する事業を行います。本来ならばこの席でタブレットを贈呈するのが本位ですが、ご存じの通り新型コロナウイルスの影響で納品が 11 月頃になることをご了解ください。本日は、納品予定のキーボード付きタブレットをご披露させて頂きます。最後に 質問を受けて頂ける時間が設けてあるそうです。

○岡崎壮男幹事は本日欠席です。副幹事の下田徳彦さんよろしくお願ひいたします。

○本日例会終了後、第 3 回の理事会が開催されます。役員・理事の皆様と鷲塚さん・岩本さん・大保木さん・高原清人さん出席頂きますようお願いいたします。

●幹事報告 副幹事 下田 徳彦



◎国際ロータリー
第 2630 地区ガバナー事務所より
・不審メールについての注意喚起

・地区補助金事業の原稿依頼について

◎ロータリー米山記念奨学会より

・米山月間用資料の送付(豆辞典/クラブ米山記念奨学委員長の手引き/寄付マニュアル 2019 年度事業報告書/2019 年度決算報告書/米山学友の群像学友会特集) ・ハイライトよねやま 246

○高山ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

10 月 29 日 (木) 休会 定款により

○高山西ロータリークラブより

・例会変更のお知らせ

9 月 25 日 (金) 休会 定款により

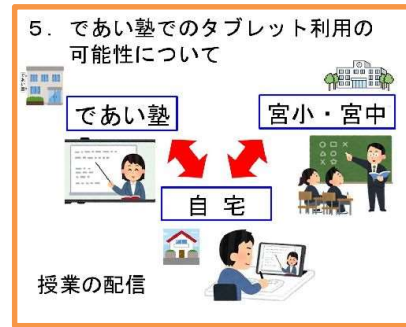
<高山市青少年育成市民会議より>

・第 37 回家族スナップ写真展・第 29 回家庭の日凶画ポスター展の作品募集及び広報活動について

● 創立 30 周年実行委員会
委員長 中田 専太郎


<卓話> 高山市の不登校の現状とタブレットを使った教育について

高山市教育委員会 教育長 中野谷 康司 様




高山中央ロータリークラブ様 例会プレゼン

高山市適応指導教室であい塾の現状とタブレット活用の可能性について



令和2年9月28日(月)
高山市教育委員会

1. 高山市の不登校の状況について
 2. 高山市の対応
 3. 市教委であい塾
 4. 「であい塾の全市的な展開」検討委員会について
 5. であい塾でのタブレット利用の可能性について
- 

5. であい塾でのタブレット利用の可能性について



個の実態に合わせた学習内容の保障

5. であい塾でのタブレット利用の可能性について

であい塾

↑ ↓

自宅

朝の会、相談
学習・相談活動の充実




5. であい塾でのタブレット利用の可能性について

であい塾

↑ ↓

学校

TV会議システムへの参加



「AI の時代に生きる子どもたちのために」
適応指導教室 であい塾 30 年
～30 年に渡る市民の支援への感謝と

見つめるべき事～



平成2年高山市初の適応指導教室は文化会館に設置され、今年度で30年目を迎えた。平成12年に「であい塾」と命名され、平成20年現在の地一之宮へ移転した。これまで延べ672名が適応指導教室に通っている。7月24日、30年を振り返る会を高山市教育委員会とであい塾友の会が共催。30代から10代の卒業生12名が会に参加。であい塾に通った子どもと保護者、そして支援を続けている方々の思いを、ダイレクトに感じられる会となった。私は会で

交わされる言葉に、多くの方に本当に温かい心で長く寄り添ってもらっている事実が心揺れた。また、同時に元相談員砂田茂登子さんの言葉「であい塾は甘やかしているなんて言う人がいたけど、そうじゃない。塾は学校復帰、大きくは自立を目指してきました。ここでしか笑顔になれない子どももいるんです。」に、塾の歩みと使命を再認識させられた。10代卒業生水口慈さんは「僕にとってであい塾は、すごく



大切な場所でした。塾に行くと同じような悩み、辛さ、苦しみをもった仲間がいました。僕は勉強が大嫌い

だったけど、であい塾の先生は、小学校に戻っ

て教えてくれました。であい塾では多くのことを学んだけど一番学んだことは、人とのつきあい方と感謝する心。人との行き違いから感情的になっていただけ、冷静になって考える大切さを学びました。」と語った。

20代卒塾生 松井大地さんも「宮のであい塾に通いました。中学生の時、僕はゲームが大好きで学校をよく休みました。であい塾では、人とのつながり、付き合い方を学んだことが今の自分につながっています。高校は定時を出て、専修学校でロシア語を学び、今働いています。」と続けた。形式的ではなく自分の思いを周囲に生の声で語る2人の姿に、多くの参加者が卒塾生の成長と適応指導教室の必要性を感じたに違いない。続いて語られた保護者の思いも、忘れられない言葉だった。川上さんは「息子は学校に行かないという意思を選んで我が家に投げかけました。今思うと素敵な意思でしたが、当時、家庭も家族もクシャクシャでどうするか悩みました。であい塾を知り、息子の唯一の居場所となりました。息子を送っていった時、私の思いを職員の方に聞いてもらえ、親の会でも話せました。今あるのはであい塾のお陰です。であい塾は原点。毎年、砂田先生の会に参加しています。」蒲さんは「我が子は、小学校4年生の頃から学校に行けなくなり辛そうにしていました。どうして自分は友達のように学校に行けないんだろうと自分を責めていました。ここまで苦しんでいる我が子を見て、であい塾に通う中で徐々に学校に行かせるだけが、友達と同じようにと考えるようになっていきました。我が子もこのままの自分でよいんだと思うことが出来るようになり、自分で選んで生きていくことを覚えました。私の育て方が悪かったんじゃないかと悩みました。職員や親の会のみなさんに話を聞いてもらえ、であい塾は私の居場所であり安心できる場所でした。」そして母の言葉を会場で聞いていた蒲皓志郎さんは「であい塾に行けて楽し

かった。感謝しています。母が言っていた様に自分を責めることが多くて……。その都度であいの先生や市役所の方が『このままの皓志郎でよいのだよ』との言葉を多く言ってもらえ、自分に自信がもてるようになりました。暮らしを共にした同窓、信じてくれた後輩、声をかけてくれた先輩。であい塾でやさしい気持ちになれました。」人は自分が苦しんできたことをこんなにも素直に話せるものだろうか。先が見えない道を進み辛さと悩みを乗り越えて、今の自分、親子だから話せるのかもかもしれない。DVDに残された表情と言葉を繰り返し噛みしめる度に、言葉の重みを感じる。AIは、苦しみや悩みをどのように捉えるのだろうか。思春期を乗り越え確立していく人の心は、理解できるのだろうか。自分が何者であるか手探りしながら生きていく思春期。体も心も大きくなると共に不安定さも増す子どもたちに高山市教育大綱が目指している“すべての子に居場所をつくる”には、どうすればよいのだろうか。AIは自立への居場所を作ってくれるのだろうか。

この30年を振り返る会のプレゼンに、ある卒塾生が市外で働くようになったので塾にサッカーボール等を寄付した写真(右掲載)があった。私はその写真を見て、であい塾は職員、OB、各学校、一之宮の地域、支援団体や個人等が支え、その思いが居場所を作っている。そして“やさしさ”が塾生の活力とやさしさに伝わりつつあると感じた。この会の谷口茂雄実行委員長は「卒塾生の当時の様子と今日の成長を見ると、ある意味で人の出会いの奇跡の凄さを感じる。子どもの自立に向けて、寄り添い続けていくことが大人の責任ではないか。そこに居場所ができていくと考えている。」と語った。その人を思い関わり続けることが、安心して舞い戻っていける場所、居場所をつくるのかもしれない。私は閉会の挨拶する際、参加者の表情を見て「であい塾は子ども、保護者、地域が存在を求めある種の学校である。」と感じた。しかし、次の

ような課題も見えてきた。スクールカウンセラー桂山順子さんから「であい塾は、今、年々活動が広げ、訪問支援を行っている点が凄い。」と認めてもらったが、その活動がどれだけ市民に伝わっているのか。またバーベキューを味わいながら、ある方が卒塾生のことを次のように語った。「卒塾生はいろんなことを話してくれるが、多くの子が『高校のテストで何点とれて嬉しかった。』と話す。きっと高校で、親身に教えてもらっていて、楽しんだらうね。嬉しい話です。」その言葉に、であい塾での学力の保障をどうすべきか、課題が浮かんだ。この30年を振り返る会は、開催がゴールではない。今後も、適応指導教室であい塾の果たしている役割を紹介し、AIの新しい時代にあったあり方を検討し続けることが市民の期待に応えることであると考えている。次のステップのために。

平成31年1月3日、私は谷口茂雄さんに30年を振り返る会の企画をFAXで送った。「年末にお話ができ、“であい塾”友の会である先生の思いを知ることができました。さて平成31年度は、であい塾が30年の節目を迎えます。ついては、尽力いただいた方々に集まっていただき、思い出と今後のであい塾に期待することを交流する場をつくることを、考えています。先生のご意見をお聞かせ下さい。但し、開催に関して市の予算要望はしていません。私は、仲間とかかわることが苦手なであい塾の小中学生だからこそ、親以外の大人との関わりを増やし、人と関わる力を身につけて欲しいと感じています。この節目を機会に、友の会をアピールし、1人でも多くの大人に関わって頂きたいと願っています。」

バーベキューを味わいながら、ある方が卒塾生のことを次のように語ってくれた。「卒塾生はいろんなことを話してくれるが、多くの子が

『高校のテストで何点とれて嬉しかった。』と話す。きっと高校で、親身に教えてもらっていて、楽しんだらうね。嬉しい話です。」

私は、その言葉がもつ意味を義務教育に携わる者として決して忘れていけないと強く感じた。今後、学校、であい塾における学びの保障をどのように担保するかは、重要な課題である。平成31年度初めて、西小学校に県費非常勤を別室登校児童のために配置した。



<ニコニコBOX>

高山市教育委員会教育長 中野谷康司様、教育研究所指導主査 大門佳孝様のご来訪を迎致します。

後程は、卓話をよろしく申し上げます。

理事役員一同

中野谷様お久しぶりです。いやいや・・・ヤッシー久しぶり！お互い年は取りましたが粹な初老になったと思います。本日はよろしくお願ひ致します。
坂之上 健一

本日は、名古屋税理士会の支部長会があり欠席いたします。下田さんによろしくお願ひ致します。
岡崎 壮男

9/27結婚記念日にきれいなお花を頂きありがとうございました。感謝感謝です。今日はこの後松倉中学に行きますので早退させて頂きますのでよろしくお願ひ致します。

高木 純